

いのちの言の葉2011

富山県教育委員会平成23年度いのちの教育総合支援事業

「カいっぱい生きる」

射水市立放生津小学校

平成23年9月16日実施

【いのちの先生】

塘添 誠次先生

・登山家 県視聴覚障害者協会理事
障害者スポーツ指導員

【授業の概要】

(サウンドテーブルテニスの体験)

- 1 当たり前であることの有り難さ
- 2 自分の障害とこれまでの私
- 3 前向きにチャレンジする現在の私

お母さんへ

わたしは、当たり前のように、ご飯を食べて、歩いて、テレビを見たりしているけど、目の見えない方や、耳の聞こえない方がいるということ、今日、学びました。点字ブロックなどに、自転車などを置くと、目の見えない方などが、困るので置かないようにしたいです。お父さん、お母さんからもらった命を大切にしたいと思います。

〇〇へ

五体満足に生まれてきたことに感謝してくれたら、うれしいです。日常生活の中でも、点字ブロックの他にも、体の不自由な人が困るだろうなど意識するやさしい気持ちを、いつも、持ってほしいです。

塘添さんから、目が見えなくてもいいことはたくさんあると学びました。これからは、みんなと助け合って生きようと思いました。

塘添さんから、命の大切さを学びました。これからは、どんなつらいことやいやなことがあっても、前向きに頑張ろうと思います。そして、私の命は、毎日誰かに支えられて生きている間、このことを忘れないで、これからの人生を歩んでいこうと思います。



目が見えることは当たり前だと思っていたけど、こんなに大切だったなんて知りませんでした。これから目が見えること、ご飯が食べられることは、すごく幸せなことだなんて思って生きていきたいです。

お母さんへ

私は、今日「命」について学びました。目が見えなくなった塘添さんの話を聞いて、目が見えるありがたみを感じました。目が見えなくなると、自由に歩けなくなったり、目で見るとの楽しみがなくなってしまいます。でも、その中で、点字を読んだり、たくさんのお友達ができたり、目が見えなくなっても楽しみがあります。私は、もし目が見えない人に会ったら、「何か手伝えることはありませんか」と声をかければよいと思います。目が見えることは、当たり前だと思っていたことが、こんなに大切だったなんて知りませんでした。私は、目で見ること、ご飯を食べられることも、すごくしあわせだなんて思って生きていきたいです。大切な〇ちゃんへ。 ママより

〇〇へ

小さい時から、相手の気持ちのわかる、とっても心のやさしい〇〇ちゃん。何に対しても前向きでがんばりやさん。入院中、痛くても苦しくても泣き言一つ言わず、先生たちの似顔絵を描いて、逆に、みんなを明るくしていましたね。これから、大人への階段を上る途中、苦しいこと、困った事があるかもしれません。そんな時は、がまんしないで、お父さん、お母さんにお話してください。私たちは、いつでも、あなたの味方です。“生かせ、いのち”『生まれてきてくれて、ありがとう』